

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015

会期：2015年3月7日（土）—5月10日（日）

会場：京都市美術館、京都府京都文化博物館、

京都芸術センター、堀川団地（上長者町棟）、鴨川デルタ（出町柳）、
河原町塩小路周辺、大垣書店烏丸三条店、京都BAL

主催：京都国際現代芸術祭組織委員会

一般社団法人京都経済同友会

京都府

京都市

**Parasophia:
Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015**

Saturday, March 7–Sunday, May 10, 2015

Kyoto Municipal Museum of Art, The Museum of Kyoto,

Kyoto Art Center, Horikawa Housing Complex (Kamichoja-machi Building),

Kamo River Delta (Demachiyanaagi), areas near the cross streets of

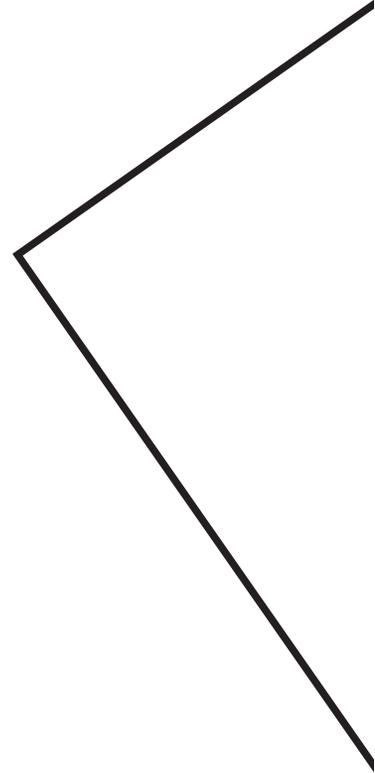
Kawaramachi and Shiokoji Streets, Books Ogaki Karasuma Sanjo, and Kyoto BAL

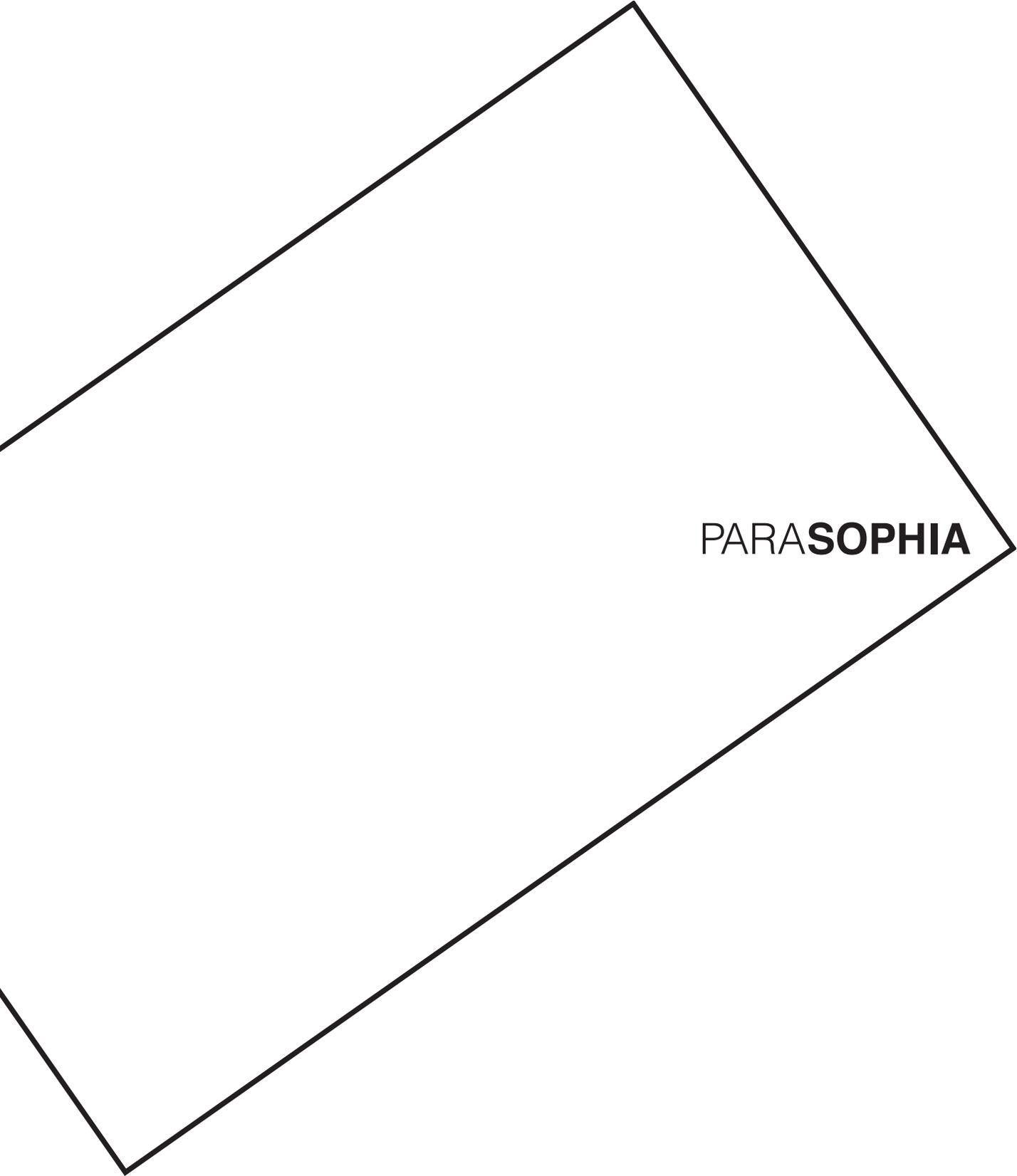
Presented by

Kyoto International Festival of Contemporary Culture Organizing Committee,

Kyoto Association of Corporate Executives (Kyoto Keizai Doyukai),

Kyoto Prefecture, and Kyoto City





PARAS**SOPHIA**

目次
Table of Contents

4	あいざつ	186	石橋義正
8	はじめに プロジェクトPARASOPHIA 2013-2015 河本信治	192	サイモン・フジワラ
13	作家リスト	200	ルイーズ・ローラー
14	ビビロッチェ・リスト	206	ローズマリー・トロケル
22	ウィリアム・ケントリッジ	214	ブラント・ジュンソー
34	アン・リスレゴー	220	ナイリー・バグラミアン
42	グシュタヴ・シュペリジョン	226	ヘトヴィヒ・フーベン
50	リサ・アン・アワーバック	232	高嶺 格
56	徐 焜(シュー・タン)	238	ラグナル・キヤルタンソン
62	アナ・トーフ	246	笹本 晃
72	アフメド・マータル	252	やなぎみわ
78	笠原恵実子	260	倉智敬子+高橋 悟
88	ヤン・ヴォー	266	ヨースト・コナイン
94	アリン・ルンジャー	274	ヘフナー / ザックス
100	アーノウト・ミック	282	蔡 國強(ツァイ・クオチャン)
108	スタン・ダグラス	290	アレクサンダー・ザルテン
114	フロリアン・ブムヘスル	294	ハルーン・ファロッキ
122	眞島竜男	298	スーザン・フィリップス
128	森村泰昌	307	作家・作品について
136	ドミニク・ゴンザレス=フォルステル	328	作品リスト
144	アラン・セクーラ	338	PARASOPHIA 2013-2015
146	セクーラを読む人	342	パートナー
168	ジャン=リュック・ヴィルムート	344	所蔵者一覧
174	田中功起	345	謝辞
180	王 虹凱(ワン・ホンカイ)	346	運営組織

はじめに……………プロジェクト PARASOPHIA 2013-2015

河本信治

京都は、その時々には生まれる先駆的な芸術家や思想家たちの活動を寛容に支援し続けてきた都市です。京都の人々が同時代の革新的な文化活動を恐れ排除するのではなく、それを穏やかに許容し支えてきた態度もまた、歴史都市京都が世界に誇る伝統の一つなのです。社会構造が激変した第二次世界大戦後も、京都の各種施設や社寺、そして篤志家たちは、国内外の多様な芸術家たちを京都という場で支えてきました。現代芸術の分野においても京都は、1960-80年代に大規模現代美術展の会場として積極的にkunst・ハレの機能を担った京都市美術館、新人作家の登竜門として機能した京都府ギャラリーの活動、美術家たちと共に「新しきもの」に挑戦した京都のギャラリストたち、1960年代下半期に日本の国・公立美術館の中で最も積極的かつ過激に現代美術のアニュアル展を開催し若い作家たちを支援し続けた京都国立近代美術館の活動、小規模ながら直接的に世界の今に繋がろうとした京都ビエンナーレ 2003の挑戦など、現代芸術に関して京都は豊かな経験を蓄積してきました。現代芸術の大規模国際展を京都で実施する環境は、先人たちのこうした活動の蓄積によって既に整っていたと言えます。

このプロジェクトは、京都に蓄積されてきた多様な文化資産や経験を統合し、外に開くことで生まれる知と文化の自由交易都市京都を幻視した民間人の強い熱意から始まりました。京都経済同友会がこの発想を実現可能な具体的計画案に纏め上げ、その構想を京都府、京都市が支援する形で実行委員会が編成され、最終的に文化庁の積極的な助成も受けることになり、組織委員会は大規模国際展の運営を担い得るものへと成長しました。10年後の成果を前提とした民間の構想を、つまり未来への先行投資を行政が評価し支援する形は我が国では例の少ない、しかしとても健康的で成熟した文化行政の姿と言えます。この国際展は最初から、一過性の祭事でも直近の経済効果を求める町興しでもない、未来に向けたプロジェクトという、他の国際展とは少し違う方向性が条件付けられています。

公式名「京都国際現代芸術祭 2015」のもと 2013年4月から始めた準備作業において最優先で行ったのが、1) 現代芸術祭の親しみやすい呼称の決定、2) 柔軟な事務局組織の設計、3) 展覧会までの約2年間の基本計画の作成でした。

1) 京都国際現代芸術祭の呼称は、熟考の末 PARASOPHIA という造語を使うことに決めました¹⁾。PARASOPHIA (パラソフィア) は、向こう側の別の知性という意味です。この意味合いと女性的で軽い音感が、この国際展の個性と固有性を自然に生み出していました。PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 はその名前自体がコンセプトなのです。

2) 柔軟な事務局組織設計のポイントは、アーティスティックディレクター(芸術監督) に対し助言を行う、プロフェッショナルアドバイザーボードを組織図の外に置くことでした。このメンバーは組織委員会の外側から、芸術監督に貴重な助言と感謝し尽くせないほどの実務的協力を提供してくれました。ボードメンバーは名誉職ではなく、プロフェッショナルな現場労働者の役割を担ってくれたのです。PARASOPHIA のキュレトリアルチームは組織の外側に、きわめて行動的で強力な専門家集団を持つことが出来ました。

3) 基本計画

プログラム: 展覧会までの期間は通常は作家と作品の調査と開催準備にあてられますが、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 は今回が初めての開催であり経験の蓄積は全くありません。展覧会を企画運営した経験を持たないスタッフを5割以上抱える組織が、2年後には大型国際展の運営当事者に成長する必要があります。そのため参加作家の調査と平行して、事務局の私たち自身の学習と PARASOPHIA 開催の周知も兼ねたプログラムを出来るだけ多く開催することにしました。こうして始まったのが、作家や作品についてキュレトリアルチームが行う調査研究の過程を一般にも公開し PARASOPHIA の活動を共有してもらうオープンリサーチプログラムであり、美術になじみのない人から幼稚園児までに、PARASOPHIA が自ら繋がろうと挑戦するアクセスプログラムなどでした²⁾。特に挑戦的な習作や思考実験的なレクチャーが多かったオープンリサーチプログラムからは、出品作品に直接繋がっていったレクチャーも一つだけではありませんでした。2014年2月8日-3月16日の期間に PARASOPHIA プレイベントとして開催した、ウィリアム・ケントリッジの複雑で大規模な映像インスタレーション《時間の抵抗》の展示運営を経験し、私たちスタッフは「PARASOPHIA は既に始まっている」という実感を強くしました。

展示会規模：京都市美術館全館と京都府京都文化博物館別館を中心に約10,000㎡以上の展示面積を有する本展ですが、参加作家40組という小さな枠組みに留めることは早い段階で決めていました。PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015は、参加作家に十分な展示スペースと細やかな支援体制を整えることを重視したからです。40組という数は私やスタッフが参加者の顔と名前をしっかりと記憶し誠実に対応できる程よい数だと思いました。

展示と配置：参加作家は「私が、いま(も)興味深いと思える作家」という基準で選びました。40組を統合するテーマや表現傾向があるわけではありません。しかし40組の並んだ作家リスト自体が十分強力なメッセージであり、その作品の配列により、おぼろげな関係性を読み取ることが可能になってきます。各会場では一応、始まりの作品から続く動線が構築してありますが、途中から鑑賞を開始することでこの動線を無効にすることが出来ます。

ガイドブック：PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015では、早い段階から無料のガイドブックを配布する計画を立てました。このガイドブックは無料で使い捨ての小冊子です。鑑賞者はガイドブックのページをめくるとに次の部屋に移動し新しい作品と対面するために、広大な展示空間の中で自分の現在位置を確認するためにこのガイドブックは有効です。それ以上にこのガイドブックは、通常は美術館の壁に付けられている解説パネルやキャプションの役割を引き受けている、紙製携帯解説パネルなのです。でもこのガイドブックは、展示会で作品を「見る」とと掲示された解説を「読む」とこのパラドックス、ひいては美術鑑賞教育のジレンマも引き受けています。このパラドックスについてウィリアム・ケントリッジはこう語っています。「……読むことと見ることのあいだで、つまり、わたしたちが世界の表象として見ているものと、言語という観点で翻訳しなければならないものとのあいだで、パラドックスを引き出してくることにあります。〔中略〕 そのうちのひとつが、美術館の中でおこっているパラドックスです。つまりそこでは、いま見ている絵画作品について書かれたキャプションを読むのをやめることはできず、その一方で、ご存じのように、その作品についてキャプションのなかで知識が増すにつれて、特定の段階になると(作品を見る割合は減ってゆき、そして読むことは見ることに取って代わるのです)³。

カタログ：カタログは展示会場とはまた異なる秩序で配列が組まれています。それは展示会を追体験するための展示会図録ではなく、本という形式でのみ可能な、また別の展示として設計されています。このカタログには参加作家に関する過剰なほどの文章が収録されていますが、そのほとんどは既にあるテキストの再録です。キュレトリアルチームが参加作家たちと緊密に連絡を交わしながら再録テキストを決めていきました。このカタログは会場展示とはまた別の展示であり、拾い集められた既存のテキストの集積でもあります。そしてここでもまた、ケントリッジが指摘した見ることと読むことのパラドックスが現出します。興味深いことに、無料配布で使い捨てのガイドブックがここでもまた、この迷宮的な本の中の展示を読み解く解説キーとして機能します。

PARASOPHIAは市民と内外の関係者を巻き込む思考と創造のプラットフォームを、世界に開かれた形で京都に根付かせるプロジェクトであり、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015は、その通過点なのです。

註

1. 「大規模な国際展となる京都国際現代芸術祭 2015 を多くの人々に興味を持っていただくために、テーマタイトルは短くて覚えやすい単語を、その音感を重視して考えました。日本人にとっては覚え易さと若干の不思議さを感じさせるものを、そして海外の複数の文化圏の人々にも京都国際現代芸術祭 2015の趣旨を感覚的に伝達可能な単語を探し、PARASOPHIA に行き着きました。PARASOPHIAは、sophiaという女性的な音感とparaという軽い語感、さらにそれが暗示する図像イメージと世界地図での京都の位置をもとに着想しました。/ PARASOPHIAはparaとsophiaを結合した造語で、どちらもギリシャ語を語源とします。sophiaは叡智や学問体系を意味し、paraは接頭辞で、パラドクス、パラソル、パラシュート、パラフレーズ、パラノイア、パラメーターなどのように、「別の、逆の、対抗的な」という意味合いで使われます。また paraは高校化学でお馴染みの芳香族、ベンゼン環の結合基の位置関係オルト、メタ、パラを指し、paraは六角形のベンゼン環で対面の関係を示しています。一般的にオルト(ortho)は「オーソドックス、正規の」という意味を、メタ(meta)は「～を超えて、超越」といった上位の階層性を暗示します。私は堅苦しさを感じる ortho やヒエラルキーを暗示する meta よりも、para の方を好ましく感じました。/ PARASOPHIA という言葉でイメージしたのは、「巨大な円卓の対面に位置する智恵子さん」といった感じ、互いに熱いアイコンタクトを交わしながらも直接手を繋ぐことが出来ない、しかし他者を介して同じ位相を共有し確実に繋がっている関係です。「京都国際現代芸術祭 2015」では、「いま私と共にある、でも私と同じではない別の、それでも私と繋がっている知性」が、京都という都市に結集することを目指します」(「京都国際現代芸術祭 2015 PARASOPHIA について」第1回記者会見資料 2013年5月27日より抜粋・加筆)

2. この活動記録は本カタログに収録されています(pp. 338–41)。

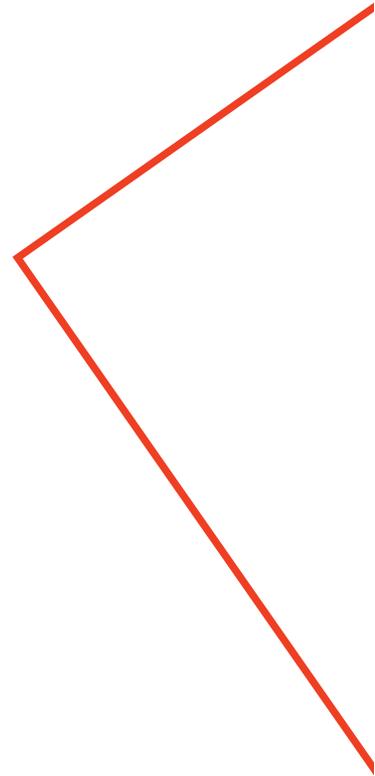
3. 本カタログ(p. 24)

凡例：

- 本書は PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015 のコンセプトブックとして構想・企画したものであり、PARASOPHIA参加作家の出品作品のほか、理解を助けるための参考作品の図版資料を掲載している。
- 掲載順は作品の展示順とは一致しない。
- 収録テキストのうち、再録の場合は文末に出典を記した。特に記載のないものは作家、作家のスタジオ、協力者、PARASOPHIA事務局のいずれかによる。

Notes:

- This catalogue was conceived as a concept book for *Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015*, and contains images and text pertaining to works that are not necessarily included in the exhibition itself.
- The order of the artists' sections in this catalogue does not reflect the order in which the works are exhibited.
- The source of republished texts are given at the end of each text. Uncredited texts are by the artist, the artist's studio or other associates, or the Parasophia Office.



フォトクレジット/Photography Credits

大高隆、表恒匡、木奥恵三、木村三晴、顧劍亨、四方邦熙、館かほる、
田中マサアキ、野々下禄斗、林直、三谷正、光川貴浩、村治瑞穂、米田有希、
Charles Benton, Florian Braun, Lance Brewer, Chen You-Wei,
Joaquín Cortés and Román Lores, Elisabet Davidsdottir, Joana França,
Kornkrit Jianpinidnan, Sven Laurent, Lin Yi, Eoghan McTigue, Bas Schevers

写真提供/Photographs Courtesy of

高山雄、Take Ninagawa、TARO NASU、東京国立近代美術館、
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、
Andrea Rosen Gallery, Athr Gallery, carlier | gebauer, Fons Welters Gallery,
Gavlak, Hauser & Wirth, Galerie Isabella Bortolozzi, i8 Gallery, JTT,
Luhring Augustine, Murray Guy Gallery, Museo Nacional Centro de Arte Reina Sofía,
Office of Contemporary Art and Culture, Thailand, Sprüth Magers
Tanya Bonakdar Gallery

著作権/Copyright

© Harun Farocki GbR © Ragnar Kjartansson and The National © Sven Laurent

特に記載のない場合、画像は作家より提供され、著作権はすべて作家に帰属する
All photos courtesy of and copyright of the artists and their studios unless otherwise indicated.

翻訳/Translation

英文和訳：板井由紀、宇佐美達朗、エグリントンみか、大西健作、長下部穰、雁木聡、小寺里枝、真田清貴、
田中祥子、永江圭祐、hanare × Social Kitchen Translation、林寿美
和文英訳：ウィリアム・アンドリュース、クリストファー・スティヴンズ、マシュー・ヒッチモウ、
アンドリュース・マークル、山川純子
中文和訳：岩切澤
中文英訳：エリック・チャン
仏文和訳：大久保美紀
独文和訳：福元崇志

English to Japanese: Mika Eglinton, hanare × Social Kitchen Translation,
Sumi Hayashi, Yuki Itai, Satoshi Kariki, Rie Kotera, Keisuke Nagae,
Minoru Osakabe, Kensaku Onishi, Kiyotaka Sanada, Shoko Tanaka, Tatsuro Usami
Japanese to English: William Andrews, Matthew Hitchmough, Andrew Maerkle,
Christopher Stephens, Sumiko Yamakawa
Chinese to Japanese: Mio Iwakiri
Chinese to English: Eric Chang
French to Japanese: Miki Okubo
German to Japanese: Takashi Fukumoto

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015

[公式カタログ]

監修:

河本信治

編集:

池澤茉莉、川角礼子、多胡真佐子、永田絵里、宮田有香

編集協力:

木村しのぶ (福本事務所)

ブックデザイン:

西岡勉

印刷:

日本写真印刷株式会社

製本:

新日本製本株式会社

発行:

京都国際現代芸術祭組織委員会

発行日:

2015年3月6日

Parasophia:

Kyoto International Contemporary Culture 2015

[Official Catalogue]

Supervision: Shinji Kohmoto

Editors: Mari Ikezawa, Reiko Kawakado,

Yuka Miyata, Ellie Nagata, Masako Tago

Assistance: Shinobu Kimura (Office Fukumoto Co., Ltd.)

Book Design: Tsutomu Nishioka

Printed by: Nissha Printing Co., Ltd.

Bound by: Shin Nihon Book Binding Co., Ltd.

Published by: Kyoto International Festival of
Contemporary Culture Organizing Committee

Published on: March 6, 2015

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015 公式カタログ正誤表
Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015 [Official Catalogue] Errata

ページ数/Page	行、掲載箇所/Line	誤/Error	正/Correct
p. 174	18	1970年6月に	1970年5月に
p. 174	25	この展覧会は同年7月	この展覧会は同年6月
p. 176	27	in <u>Tokyo in June</u> 1970.	in May 1970.
p. 176	32	In <u>July of</u> 1970,	In June 1970,
p. 328	スタン・ダグラス	機材協力: <u>株式会社バナソニック</u>	バナソニック株式会社
p. 329	ヘフナー/ザックス	制作協力: <u>旧柳原銀行記念館</u>	柳原銀行記念資料館
p. 329	倉智敏子+高橋悟	撮影協力: <u>旧柳原銀行記念館</u>	柳原銀行記念資料館
p. 329	ルイズ・ローラー	5点	6点
p. 331	フロリアン・ブムヘスル	[村山知義作品サイズ追加]	40×27センチ
p. 331	アリン・ルンジャー	機材協力: <u>株式会社バナソニック</u>	バナソニック株式会社
p. 331	ローズマリー・トロッケル	ウール (グレーがかったページュ、木)	ウール (グレーがかったページュ)、木
p. 331	ローズマリー・トロッケル	ウール (ブラウンがかったオリーブ、木)	ウール (ブラウンがかったオリーブ)、木
p. 334	Louise Lawler	5 others	6 others
p. 336	Pipilotti Rist	Produced with the cooperation of <u>Elephants Studios</u>	Elefant Studios
p. 342	協賛	[追加]	株式会社トロンマネージメント (www.tronmanagement.com)
p. 343	Presented with the sponsorship of	[Add]	TRON management inc.
p. 350	フォトクレジット	[撮影者追加]	福尾行洋
p. 350	Translation	Minoru Osakabe	Yutaka Osakabe

2015年4月17日/April 17, 2015

名称およびお名前間違い、記載漏れがございましたことを謹んでお詫び申し上げますとともに上記の通り訂正いたします。